

‘キャッチ’
CATCH

Vol.102

2023.7



西東京市図書館

私の推し、語ります

推し=人に薦めたいと思うほどに好感を持っている人物のこと。国語辞典にも載るようになったこの言葉。推し活、推しメン、推しかぶり…。

俳優、アイドル、アニメの登場人物と、今やなんでも推す時代。本を愛してやまない編集者たちにも、本にまつわる“推しバナ”をしてもらいます。

『IQ 探偵ムー 秘密基地大作戦（上・下）』

深沢美潮／作 山田J太／画 ポプラ社

皆さんは、“秘密基地”を作ったことがありますか？ きっと作ったことがなくとも、友達と好きなものを持ち寄って、誰にも知られないところで自由に過ごすということに憧れはあったのではないのでしょうか。

私が今回紹介する話は、そんな秘密基地を作ろうと少年三人で立ち上がるころから始まります。銀杏が丘市に住む小学5年生の元は、夏休み中ずっとゴロゴロして時間を浪費してしまっていることに焦りを覚えていました。そんな中、とあるテレビ番組を見て夏休みの思い出に秘密基地を作りたいと思い立った元は、同じクラスの小林と大木と一緒に秘密基地を作ろうと話を進めます。話を進める中、ひょんなことから3人と同じクラスの溜香と夢羽も混ざり、夢羽の家の庭に秘密基地を作ることとなります。作業も順調に進み、1週間程で完成までこぎつけ、各々好きなものを持ち寄りました。

元は図書館で借りた“銀杏が丘の歴史”という本などを数冊持ち込みます。そしてその日の夜、元は家族から最近近くで宝石泥棒が起こった事を知らされます。そんな中、まだ期日も過ぎていないのにも関わらず図書館から『“銀杏が丘の歴史”の本を返してください』と電話が鳴ります。そしてこの電話が全ての出来事の引き金となることを知らないまま、元はこっそり家から抜け出して暗い道を走り、秘密基地へと向かっていきます。

この本の“推し”ポイントは、夢羽と元のコンビネーションの良さです。ある人物から“ホームズとワトソン”と言われているほどの信頼関係で、見ていてとても面白いです。この本はシリーズ物のため他のシリーズも見てみると面白いですよ！ 完成した秘密基地で何が起こったのか、電話の目的は何だったのか、夢羽と元のどのようなコンビネーションが見られるのか、是非手に取りその目で確かめてみてください！

『あなたのための短歌集』

木下龍也／著 ナナロク社

私の今の“推し”は、「短歌」です！ 推しとってよく思い浮かぶような、キャラクターや芸能人などではありませんが、今とてもはまっているものとして選びました。

「短歌」は、五・七・五・七・七の三十一音で作られた日本伝統の詩です。学校の授業で扱うような、古くて難しいものというイメージを持っている人もいるかもしれませんが。ですが、私が今回紹介する『あなたのための短歌集』

に載っている短歌はどれも今の言葉で書かれていて、難しくありません。それどころか、あなたが共感できる歌もきっと見つかると思います！

この本は「短歌集」とある通り、短歌が集められて載っている本です。

一つ、この本の特徴的なところがあります。それは、ここに載っている短歌はどれも、依頼者からのお題をうけて、歌人の木下龍也さんが作り出したものであるという点です。一例として、この本の中での私の「推し短歌」を紹介します。

お題：いつも一歩を踏み出すことができない、私の背中を押してくれる短歌をお願いします。

短歌：こわがりな心の花に陽をあてるために身体をもらったんだよ

このように悩みの相談であったり、他にも自分の名前を題材に歌を作ってほしいということであったり、様々な「お題」に木下さんは短歌で返しています。そのお題を送ってきた人のための短歌なので、「あなたのための」短歌なのです。誰かの心に寄り添って作られた短歌は、あなたの心にも寄り添ってくれるかもしれません。

また、心の中で口ずさみやすいのが私の短歌の推しポイントです。それぞれの推しの曲だったり言葉だったりを支えにしている人もいます。ぜひその中に「推し短歌」も加えていただき、心のお守りにしてもらえると嬉しいです！

『ハケンアニメ！』

辻村深月／著 マガジンハウス

アニメは好きですか？

これは、アニメをこよなく愛する大人たちが、その時期放送されているアニメの中のトップである『覇権アニメ』を目指す本です。

伝説のアニメを撮ったわがまま監督、そのアニメに魅せられ彼と仕事をすることを熱望したプロデューサー、ずっとやりたかったテーマのアニメを撮る天才肌の監督、やり手だけれど人の名前を覚えられないプロデューサー、『^{かみげん}神原^が画』と一躍話題の人となったアニメーター、町おこしのためによく知らないアニメの聖地巡礼プロジェクトに奮闘する市役所の公務員。

アニメに本気で携わり、理解したいともがき、天下を取りたいと叫ぶ。この本には、そんな人たちが丁寧かつリアルに描かれています。

「この業界周りで働く人たちは、皆、総じて“愛”に弱いのだ。自分のやっていることに誇りを持っています、これが好きです、というのを見せられてしまうと、簡単にたらしされてしまう。」これは、第一章『王子と猛獣使い』の主人公、^{かやこ}香屋子のモノローグに、度々登場する言葉です。アニメに限らず好きなものがある人なら、この言葉に共感できるのではないのでしょうか。自分と同じ、もしくは自分以上の熱度で何かに夢中になっている人を見ると、その人を応援したくなってしまいます。その愛を、この本からはたくさん感じることができます。

人の愛と熱意を、手に取るように感じたい人はぜひ。この本を読み終わっ

たとき、きっとあなたはアニメを見たくて堪らなくなっているでしょう。

さんえ
『残穢』

小野不由美／著 新潮社

みなさんは怖い話といえばどのようなものをイメージしますか？幽霊やおばけが出てきたりするものを思い浮かべる人もいれば、実は本当に怖いのは人間で…みたいな話を思い浮かべる人もいるかもしれません。今回紹介する『残穢』はそんな「怖い話」が中心となっている本です。

この物語は、小説家であり恐怖体験の収集もしている主人公の下に届いた一通の手紙から始まります。手紙に書かれた恐怖体験が数年前に別の人から届いた恐怖体験と似ていることに気づいた主人公がそれを調査していくにつれてその怪談がその土地やそこに住んでいた人々と深く結びついていることがわかっていきます。

さて、ここまであらすじを読んだ皆さんは「なんで“推し”がテーマなのにこんな内容の本を？」と思っているかもしれません。実はこの本、私の最近の推しである漫画『呪術廻戦』の作者の推し作品ということがきっかけで読んでハマった本なのです。皆さんも、本との出会い方は色々あると思いますが、「推しの推しだから」という理由で本を読んでみても、面白いかもしれません。



『同志少女よ、敵を撃て』

逢坂冬馬／著 早川書房

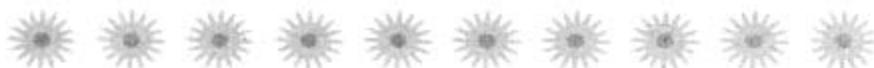
この本は、新人賞の第11回アガサ・クリスティー賞の応募作で、満場一致で大賞を受賞して出版され、2022年には本屋大賞の大賞を受賞しました。ご存知の方も多いかと思います。

この話は、独ソ戦が激化する1942年に、モスクワの郊外の村に暮らす少女のセラフィマが、母親と村人をドイツ軍に^{さんざつ}惨殺され、母親を撃ったドイツ人狙撃手と、母親の遺体を焼き払った赤軍の女性兵士イリーナに復讐するため、狙撃兵になることを決意するというところから始まります。

精巧な描写で、匂いや音、映像が鮮明に浮かび上がって、まるで目の前で戦争が起こっているようです。戦争のぞっとするほどの残酷さや、恐怖、消えていく命の虚しさを、文章から感じられます。

この話は実在の人物が元になっているわけではありません。ですが戦争は実際にありました。だから読んでいて辛いし、怖いです。

ですが、この本を“推し”に選んだのは、皆さんに是非読んでほしいからです。日本では、戦争を経験された方は減りつつあります。戦争がいけないことだとは思っていても、経験したことがなければその理由は漠然としていることがあるかもしれません。戦争について知る方法の一つとして、この本を手にとってみてはいかがでしょうか。



共同編集者のつばやき

～編集後記に代えて～

今年度もはりきって CATCH を発行していきます。今回は、編集者たちの推しに関する本を紹介してもらいましたので、ここでも、今の推し、歴代の推しなどを紹介してもらいます。

①ブロッコリー

②勇氣

③部活ものの創作キャラ、その前までは plott アニメさんのキャラを推してました。今も時々見て妄想の参考にしてます。

①あさぎ

②何も気にせず好きな本を読む時間

③キャラよりも作品そのものを推す派です！自分の友達も面白くて大好きな今の推しです。

①なぎ

②推しのアクリルスタンド、そして時間…

③『ブルーロック』ニ子、乙夜/Stray Kidsヒョンジン、ハン/TWICE ダヒョン

①アオイ

②色々あるけどまずは時間が欲しいです…

③伏黒甚爾（呪術廻戦）

①ペンネーム

②今、欲しいもの

③今の推し、歴代の推し

①たわら

②テスト前なので超能力がほしいです。

③今の推しは、「ワンパンマン」のサイタマと「マッシュル」のマッシュ、「高木純雄の♀難」の純雄です。歴代の推しは、アンパンマンとプリキュアです(笑)

①りほ

②要領の良さ、記憶力。切実に・・・。

③今も昔も「ドラえもん」が好きです！

①しほ

②スマホの写真の容量

③今の推し:戦国鍋・炒飯TV という番組のコーナー、ミュージックトゥナイトに出てくる歌って踊る歴史人物たち

歴代の推し:TBS の 5 分程の番組に出てきていた、飼い主の体調を心配する賢い猫